



mIRaI 通信

～輝く「未来」の中に「伊里」はある～



ふれあい学級で面接 GO GO!!



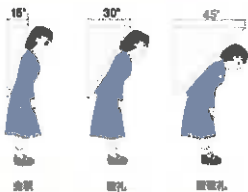
2学期も押し迫り、3年生はすでに受験（検）モードに突入しています。そして14日、ふれあい学級の方に面接官になっていただく面接練習が行われました。普段活動を共にしていない（時に共同学習や行事ではご一緒しますが、頻度的にという意味で）方との練習は、かなりの緊張感を伴うので、とても良い機会です。他校ではまずあり得ません。伊里中学校生徒は恵まれていますね。

しかし、何と今回は、急にご都合が悪くなった方が2名出て、急ぎよ私にピンチヒッターの白羽の矢が立ったのでした（意味はわかるよね、受験生諸君）。

そして3組のグループ面接練習。まだまだ初期段階なので、志望動機の内容、目線の位置、姿勢、言葉遣い、予想しない質問への対応など、まだまだな面も多くありました。しかし、面接で大切なのは、変に着飾ったようなテクニックではなく、真摯な姿勢ややる気・情熱です。その点では、どの生徒も、一生懸命さ、誠実さなどは十分伝わってきました。その下地があれば、反復練習を重ねることでテクニックなどすぐに身に付いてきます。

これからが正念場、ますます磨き上げていってください。

mIRaI 通信も、そろそろ「受験」「面接」シリーズに突入です。



まず最初のアドバイス。多くの方が自信なさげでしたが、礼の仕方から。45度の「最敬礼」、30度の「敬礼」、15度の「会釈」と3種類の礼の仕方があります。面接の場では、45度の「最敬礼」はまず使うことがありません。30度の「敬礼」がしっかりできるようにしておきましょう。部屋に入る前に高校の先生に会った時などは、「会釈」で十分です。

二十四節気 大雪

次候「熊穴に蟄る（くまあなにこもる）」12月12日～15日頃

熊が穴に入って冬ごもりする頃。冬の間、子供を生み育てる雌もいるそうです。



末候「鱈魚群がる（さけむらがる）」12月16日～20日日頃

鮭が群れなして川を遡る頃。海で大きく育ち、ふるさとの川へ帰って来ます。





美術室からのエッセイ～鑑賞する心～



2学期最後の美術の授業が終わりました！今学期も楽しい時間を過ごすことができました。

(生徒の皆さんもそうであるといいのですが・・・)

さて、今学期印象深かった授業について報告です。

美術には「鑑賞」という領域があって、1学期に1～2回、いろいろな作品を鑑賞します。有名なところではピカソや雪舟に始まり友達作品も鑑賞します。「素直に」「感じたままに」「自分の言葉で表現できること」(教頭先生の受け売り)が大切です。まずは作品をじっくり見ます。隅から隅まで。「何が描かれている？何をみつけた？好き、嫌い？疑問に思ったことは？感じたことは？どうして、そう思った？どこを見て、そう感じた？」と、目と頭、心をフルに使って絵を見、言葉にしてほしいのですが、これが結構たいへんな作業です。

3年生2学期の鑑賞は瀬戸内国際芸術祭、小豆島の大部の海岸に展示されていたリン・シュンロン「国境を越えて・潮」でした。この教材を取り上げたのは初めてで、うまくいくか、ちょっと不安もありましたが、蓋をあけてビックリ！私が想像していた以上の意見や感想が出てきて、3年生の成長に涙、涙、感涙。作品は海岸にたくさんのこどもの像がいろいろな方向を向いて立っていて、壊れているものもある不思議な作品です。情報は写真だけ、こどもの表情、向き、不思議な数字などから「自分の国を向いているのでは？帰りたいと思っているのでは？お腹がすいているのでは？水が欲しいのでは？」などなど「戦争についてが、テーマでは？」という意見まで出てき、もの悲しい雰囲気を感じ取っていました。

この作品は海岸に196体(日本が承認する世界の国の数)の子どもの像を設置。体には各国の首都の座標と大部港からの距離が記され、それぞれの国に向いています。砂や米粉、砂糖などでできているため、波や風で壊れていき、最後は鉄のプレート(国名が入っています)の先に石膏でできたバラが残ります。トルコの海岸に流れ着いたシリア難民の子供の遺体の写真からイメージして制作されたそうです。授業後の感想には「他の人の意見を聞いてびっくりした。同じ感じ方をする人がいて嬉しかった。作品をよく見ると最初は感じなかったことを見つけることができた。」などなど

それぞれの感じ方でいいし、違った感じ方をする人がいることも学んだ1時間でした。ちなみにこの作品はリン・シュンロンさんを招いて解体式が行われ、石で砕き海に帰したそうです。

教育実習中に担当教官から「美術を教えるのではなく、美術で教えるのだよ。」と言われた言葉が忘れられません。

冬休み中、この季節でしか見られないもの、感じられないもの、触れられないものを探して見てくださいね。



国境を越えて・潮

今回のエッセイリストは、美術の尾堂先生です。本当に楽しい授業、それも生徒が自分の思いを引きだして作品に生かしていただけるような授業をしてくださっています。ありがたいやら羨ましいやら、悔しいやら(苦笑)。校内に展示されている作品を拝見するごとに、失われつつある(涙)美術教員魂を揺さぶられております。今回の鑑賞のエッセイを読んでまた嬉しくなりました。伊里中生徒の感性、すごいですね。こんな鑑賞の反応をしてくれたら教師冥利に尽きますっってもんですよ。その心、一生持ち続けてくださいね。

前回掲載した、岸先生のエッセイですが、間違いがありましたのでお詫びして訂正させていただきます。4歳児学級名が、「そらぐみ」となっていました、「つきぐみ」の誤りでした、申し訳ありませんでした、